



令和5年度 東京都立村山特別支援学校 学校経営報告

1 学校の現況

本校は昭和48年に開校し、今年度で50年目を迎える肢体不自由単独の特別支援学校である。通学区域は、武蔵村山市・東大和市・立川市・昭島市・西多摩郡瑞穂町・東村山市及び国立市の一部の計7市町であり、スクールバス16台、医療的ケア専用車両8台を運行している。学級数は40学級で、うち20学級が重度重複学級、6学級が訪問学級である。医療的ケアを必要とする児童・生徒が約40名在籍しており、障害が重い児童・生徒の比率が極めて高いという特徴がある。

教職員は主幹教諭5名（うち1名は年度途中退職）、指導教諭1名、主任教諭18名、教諭40名、主任養護教諭・養護教諭各1名、主任教諭の比率は30%、本校経験年数が3年以下の教員が約6割おり、コロナ過で中断していた学校行事等以前の本校勤務教員が少ないため、新たな形で学校経営を進めていく必要がある。

校舎老朽に伴い、東京都の「主要施設10か年維持更新計画」に基づき全面改築となるため、今年度2学期から仮設校舎（緑が丘校舎）に移転した。本校舎は解体工事を進めており、令和9年夏に新校舎が完成予定である。

2 令和5年度の取り組みについて

仮設校舎移転後も教育の質を落とすことなく、「しなやかな 心・身体・頭」のスローガンのもと、たくましく生き抜き、多様性を尊重し、積極的に社会的役割を果たす児童・生徒の育成を目指して教育活動を行うことができた。具体的には以下のとおりである。

（1）児童・生徒の「生きる力」を育てる生き生きとした教育活動

① 体育・健康教育について

児童・生徒の実態を的確に把握した上で、体育・保健体育や自立活動の授業において身体能力や運動機能を向上させる活動を推進した。外部専門員を活用し、障害の状況に応じた支援の仕方について助言を受けるとともに、長期休業中に教員を対象とした研修会を実施した。また、ダンス学習については外部専門員を助言者として授業を行い、学習の成果を「ダンス・フェスティバル」で発表した。保護者にも参観していただき大変好評であった。今年度から体育健康教育推進校の指定を受け、1年目はダンス学習の内容を中心に報告書を作成、次年度はまとめの年となるので取り組みの成果を報告できるよう進めていく。

コロナ過で昨年度1回しか実施できなかった部活動は計画通り9回実施できた。参加に意欲的な生徒もいるので次年度は指導できる教員を増やし、ボッチャ及びハンドサッカーの大会への出場を目指し活動を充実させていく。

② 児童・生徒の将来像を見据えた12年間の教育課程の構築

今年度から2年計画で、12年間を見通した教育内容の研究を進めている。今年度は課題別学習、国語・算数(数学)、音楽、保健体育の4つの分科会に分かれて、外部専門員などの助言者の協力を得て研究を進め、成果については公開研究会にて発表を行った。次年度は外部の助言者を入れるなどして研究の充実を図っていく。

③ 芸術・文化教育について

芸術鑑賞会や各美術展への応募などを積極的に行い、アートプロジェクト展には2年続

けて入選作を出すことができた。校内に「村山ギャラリー」のスペースをつくり作品展示を行い、保護者や来校者に鑑賞いただくことができた。

また、言語活動の推進として、緑が丘校舎移転後の図書コーナーの充実を図るとともに、蔵書を増やす取り組みを行った。また、年3回の読み聞かせ会の実施や高等部弁論大会の開催などを通して児童・生徒の言語能力の向上を図ることができた。

④学校行事の段階的な実施について

宿泊行事の段階的な実施として、高等部2・3学年、中学部2・3学年、小学部6学年についてすべて1泊2日で実施した。体調不良のため全行程に参加できなかった生徒もいたが、どの行事も計画通り実施できた。次年度は高等部修学旅行を2泊3日で実施予定である。社会見学等の校外行事については、昼食を摂らないで帰校するなど実施方法を工夫して実施した。また、村山祭については展示及び舞台発表、模擬店等の活動を多くの保護者に参観いただき、学習の成果を見ていただくことができた。

(2) 質の高い教育サービスの提供

①学習指導要領に則った個別指導計画の作成と、個に応じた教育の推進。

指導と評価の一体化を目指し3観点での学習評価を進めるため、校長による研修を2回実施し記載について徹底を図った。前期評価からは各教員とも3観点で記載することが徹底されてきたが、観点と内容の整合性などについては更に精度を高めていくことが課題である。

②教材・教具等の積極的情報発信。

8月に教材展示会を実施した。外部からもオンラインでの参加者があり、ホームページを活用して外部への発信を行った。

③ICT機器等の活用によるデジタル技術活用教育の推進。

一人1台端末の活用を引き続き進めているが、十分に活用しているケースがある一方、教員の技量や家庭環境等により活用が十分でないケースもあるので、活用について更に工夫していく必要がある。また、重度重複障害の児童・生徒について視線入力装置の活用を進めるため、次年度は有効に活用できる機器を購入し、推進を図っていく。

(3) 安全・安心な教育環境の整備

①サービス事故について

サービス事故防止研修等の計画的実施や職員連絡会、職員朝会での事例報告などをこまめに行い注意喚起することでサービス事故の防止を図った。配布物の誤配布など、事故につながりかねない事例については、再発防止策を徹底することで防ぐことができた。

②防災教育について

避難訓練については、施設の状態や指導体制などを考慮し、より現実的な中身にするように内容を検討しながら計画通りに進めることができた。また、高等部1学年を対象に有事の際の避難体験をする宿泊防災訓練（泊なし）を実施した。

校舎移転後の校内危険個所について補正予算等を活用し、転落防止柵・段差解消スロープなどの設置を進め、事故防止に努めた。施設面の不具合等については経営企画室と管理業者がこまめに連携することで素早く対応できた。

③命や思いやりを大切にすることを育む教育の推進

学校評価では100%の数値目標にはわずかに届かなかったが、「心のアンケート」を毎月実施することで、児童・生徒の不安や悩みを早期に把握し、臨床心理士等を活用して解決を図ることができた。

④医療的ケアの安全・確実な実施

東京都の2つのモデル事業を安全に実施するとともに、保護者待機期間の短縮化等の課題解決を図りながら医療的ケアを実施した。学校評価では肯定的評価が93%と高い評価をいただいた。実施に際してアクシデントはなかったが、それにつながりかねないインシデントは何件かあった。その都度原因究明を図り、再発防止策を立てて対応してきたことについては、指導医からも評価していただいた。

(4)「開かれた学校」の積極的推進と、センター的機能の一層の強化

①12年間を見通したキャリア教育に基づく進路指導の充実

高等部3年生については全員の生徒の進路を決めることができた。生活介護を中心とする通所施設については、定員の関係で一か所に毎日通所するのが難しいため、曜日によって複数の施設に通所するというケースが何例かあり、進路先の開拓は引き続き課題としていく。

②副籍・学校間交流の計画的実施

学校間交流は行事場面でのオンライン交流を予定していた1校が、行事の実施方法の変更により実施できなかったがそれ以外の交流は実施できた。普通中学校との交流は本校からの一方通行的なものになっているので、次年度は改善できるよう申し入れている。

副籍の直接交流はコロナ過の時よりも実施できるケースが増えてきたが、諸事情により実施できなかったケースが生じた。保護者の要望も強いのでインクルーシブ教育を進めていく意味でも継続して推進していく必要がある。

③看護師等の派遣による、他種別特別支援学校への医療的ケアの支援

清瀬・東久留米両特別支援学校の支援校として看護師の派遣を行い、医療的ケアの実施について支援を行った。看護師の服務については兼務扱いになるので、経営企画室担当者と確認しながら進める必要がある。

(5) ライフ・ワーク・バランスの推進

①勤務の状況について

メリハリをつけて職務にあたるよう指導・助言し、マイ定時退庁日やノー会議デイには定時退勤することを目標に取り組んだ。月の超過勤務時間が45時間を超える教員は月平均5~10名、60時間を超える教員はそのうち2~3名程度であった。健康被害につながるようなケースはなく、学校評価アンケートの結果も9割の教員が「ライフ・ワーク・バランスの実現ができた」との回答であった。男性教職員の育休取得は対象となる教員がいなかった。

②計画的、効率的、効果的な予算の執行。

自律経営予算については計画的に執行できた。特に仮設校舎の安全対策について、迅速に対応できたことは安全・安心な学校生活を送る上で極めて有効であった。センター執行の割合を60%の目標にしたが、執行率は50%に届かなかった。執行率を上げていくことを次年度の課題とする。

(6) 改築工事に向けた校内の組織作り及び全体計画の作成

仮設校舎への移転作業については、プロジェクトチームを組んで計画的に行うことで円滑に進めることができた。スクールバスの送り出しが課題であったが、近隣の住民からの苦情等もなく実施できている。今後は教育環境の整備を更に進めるとともに、新校舎の実施設計に向けて教育委員会担当部署と連携をとりながら着実に進めていく。

3 令和5年度の取組目標の達成状況

A：達成

B：未達成<あと少しで達成>

C：未達成<目標に及ばず>

【重点目標1】生き生きとした教育活動	年度末の数値等	達成状況
(1)外部講師を活用したダンス授業の計画的実施とダンス・フェスティバルの開催	ダンス授業 (年52回) ダンス・フェスティバルの開催	A
(2)お花植え学習、お昼の放送、村山祭の計画的実施と全校・学部集会の実施	お花植え学習 (年2回) 集会の実施 (年7回)	A
(3)12年間を見通した指導内容の研究	分科会別研究会 (各3回)	A
(4)読書活動の充実と、児童・生徒及び教員・外部講師による読み聞かせ活動、弁論大会の実施	読み聞かせ会の実施 (年3回) 弁論大会 (年1回)	A
(5)安全・安心な校外行事の段階的实施	保護者を含む関係者の肯定的評価 (94%) 部活動の実施 (年9回)	A
(6)準ずる教育課程におけるデジタルを活用した他校との共同学習 [研究指定校]	共同学習の実施 (年8回)	A
【重点目標2】質の高い教育サービスの提供		
(1)個別指導計画への3観点による評価の記載	前期評価までに (全教員)	A
(2)外部・内部講師による専門性向上研修及び研究授業の実施	研究授業 (年95回) 外部講師等を活用した授業実践 (年78回)	A A
(3)タブレット端末の活用による授業活用情報発信と児童・生徒のニーズに応じたリモート授業の実施	タブレット端末の授業活用 (全教職員)	A
(4)教材展示会の実施及びホームページ等での教材・教具の紹介	教材展示会 (8/30実施) 教材・教具等の配信 (年21回)	A A
(5)公開研究会の実施	公開研究会の実施 (3/1実施)	A
(6)計画的、効率的な予算執行	予算執行率 (100%) 一般需用費のセンター契約執行率 (43%)	A C
【重点目標3】安全・安心な教育環境の整備		
(1)迅速な事故対応等危機管理体制を整備と学校事故の防止。体罰防止研修、意識向上研修の実施	体罰防止研修の実施 (年3回)	A
(2)児童・生徒が楽しく安心して通える学校・心の日の計画的な実施	保護者及び児童・生徒学校の肯定的評価 (97%) 心の日の設置 (毎月1回)	B A
(3)外部委員の参加による防災教育推進委員会及び学校サポートチームの計画的な実施	(各年2回)	A
(4)医療的ケア保護者会等を活用した医療的ケアの保護者との連携	医療的ケアアクシデント (0件) 医ケア保護者会の実施	A A
(5)人工呼吸器対応訓練等の実施による、緊急時への万全の備え	対応訓練 (年3回)	A
(6)外部・内部講師による摂食に関する研修会及び食物アレルギーに関する対応訓練・研修会の実施	(併せて年5回)	A

(7)都のガイドラインに基づく組織的で迅速・効果的なコロナ感染症対応	保護者を含む関係者の肯定的評価 (95%)	A
【重点目標4】「開かれた学校」の積極的推進と、センター的機能の一層の強化		
(1)キャリア教育に基づく個別指導計画の作成と計画的な進路指導による進路先の決定	高等部卒業生の進路先の決定 (100%)	A
(2)副籍交流及び学校間及び関係機関との交流の計画的実施	学校間及び関係機関との交流の実施 (年6カ所)	B
	副籍直接交流の実施者数 (19人)	C
(3)理解推進のための出前授業等の実施	(年間14回)	C
(4)学校公開及び学校説明会(個別対応)の実施	学校公開実施(年2回)	A
	学校公開参加者数 (計87人)	A
(5)学校ホームページでの情報の発信	ホームページ更新回数 (年187回)	A
	授業・行事等の様子紹介、村山の給食、村山ミュージアム等の発信回数 (年78回)	A
(6)看護師等の派遣による、他種別特別支援学校への医療的ケアの支援	清瀬特別支援学校、東久留米特別支援学校へ支援	A
【重点目標5】 ライフ・ワーク・バランスの推進		
(1)電子掲示板、メール等を活用した連絡体制及び申請書類等の電子化の推進	教職員の学校評価「ライフワークバランスの実現」 (90%)	A
(2)人事考課制度等を活用した意識改革の推進		
(3)マイ定時退庁日・ノー会議デイの設定	設定日(毎月1回)	A
(4)超過勤務の上限設定(月45時間年360時間以内)と、メンタルヘルス研修等の実施	メンタルヘルス等研修の実施 (年2回)	A
【重点目標6】計画的な校舎移転と停滞なき教育活動の実施		
(1)仮校舎へのスムーズな移転と教育環境の整備と充実	保護者を含む関係者の肯定的評価 (98%)	A

4 令和6年度の課題と取組目標

学校評価等を受けて、学校運営協議会から提言をいただくとともに、令和6年度の課題と取組目標を設定し。この内容を踏まえて次年度の学校経営計画を策定する。

(1) 学校運営連絡協議会からの提言

- ①今年度同様、先生方が日々活力のある教育活動が実施できるよう、ワークライフバランスの維持や学びの機会の確保に努めてください。
- ②学校生活支援シート作成を通じて把握される児童・生徒、保護者の思いや願いを受け止め、学校生活の改善充実だけでなく、交流及び共同学習を通じた地域生活のQOL改善や卒業後の進路確保につながるよう、関係機関との連携を充実させていってください。
- ③児童・生徒が、ますます学校生活を楽しく、安全に充実して過ごし、身体及び知的機能を発達させることができるよう、先生方が障害の状態や特別な教育ニーズの把握に努め、専門性の向上を進めてください。

(2) 次年度の課題と取組目標

①安全・安心な教育環境の整備

- ・感染症対策を踏まえた安全な宿泊行事、校外行事の実施。
- ・関係機関の助言に基づく防災・防犯対策及び玄関・駐車場の安全対策の実施と、保護者への情報発信の工夫。
- ・保護者と連携した、実施要項に基づく医療的ケアの安全・確実な実施。
- ・仮設校舎の教育環境整備と充実、本校舎建設工事の着実な進行と確実な業者打合せの実施。

②教職員の専門性向上と質の高い教育活動の提供

- ・外部専門員を活用したダンス授業、お花植え学習の実施。
- ・読書活動の充実及び様々な文化芸術体験活動の実施。
- ・特支 GIGA スクール端末・高等部一人1台端末 (iPad) 及び ICT 機器を活用した学習活動の充実。
- ・各教育課程における12年間を見通した指導内容の研究に基づくカリキュラムの改善。
- ・専門性向上研修、研究授業、教材展示会、公開研究会の計画的実施。
- ・学習における指導と評価の一体化。

③「開かれた学校」の積極的推進と情報発信

- ・副籍交流、学校間及び関係機関との交流の計画的実施と保護者への情報発信の工夫。
- ・理解推進のための出前授業等の実施と学校公開及び学校説明会(個別対応)の実施。
- ・12年間を見通したキャリア教育に基づく計画的な進路指導の実施と進路先の決定。
- ・学校ホームページ等による学習の様子、教材・教具等の情報発信。